

第6学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「登場人物の生き方について、考えたことを話し合おう」 教材名「海の命」

2 単元の目標

心情や人物の関係を表す語句を確かめ、人物についての意見文で使える。人物の生き方について場面を関係付けてまとめた意見を共有し、自分の考えを広げられる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①心情や人物の関係を表す語句を確かめ、人物についての意見文で使っている。（〔知識及び技能〕(1)オ）	①「読むこと」において、人物の生き方について場面を関係付けてまとめた意見を共有し、自分の考えを広げている。（C(1)力）	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

太一の生き方について、関わる人物の言葉や行動、最後の選択とそれ以前の場面を結び付けて考える。教訓を言うだけにせず、どの関わりや出来事を重く読んだかを根拠として示す。学習指導要領のC(1)力を中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(1)オを、言語活動の中で確かめる。年間計画の重点項目に加え、本案では〔知識及び技能〕(1)オを活動に関わる事項として扱う。

（2）児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）

（3）指導について

太一の行動と、関わる人物の言葉や行動を対応させる。最後の選択につながると考えた箇所を示し、関係を説明する。解釈の違いは根拠の違いと結び付け、結論だけの賛否にしない。おおむね満足できる状況は、人物の生き方について場面を関係付けてまとめた意見を共有し、自分の考えを広げているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画（全6時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○全文を読み、太一の生き方への初めの考えを記録する。	学習状況を見て支援する。
第2次	2	○太一と関わる人物の言葉や行動を整理し、変化を考える。	知①（語句や内容の整理）
	3	○最後の選択を前の場面と結び付け、重く読んだ根拠をメモする。	学習状況を見て支援する。
	4 （本 時）	○根拠と関係の説明を添えて意見を伝え合い、違う見方を確かめる。	思①（発言・学習記録）
	5	○話し合いを受けて物語を読み直し、生き方への意見文を書く。	学習状況を見て支援する。
第3次	6	○意見文を交流し、自分の見方が広がった所を振り返る。	態①（学習前後の記録・振り返り）



6 本時の指導 (4/6)

(1) 本時の目標

人物の生き方について場面を関係付けてまとめた意見を共有し、自分の考えを広げられる。

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「太一の最後の選択を考えると、それ以前のどの関わりや出来事が大事だと読みましたか」 【めあて】太一の生き方について、関わる人物の言葉や行動、最後の選択とそれ以前の場面を結び付けて考える。 〈予想される児童の反応〉 ・最後の場面だけを読むと分からなかったことが、前の場面と結び付く。	本時に考える対象を確認し、既に確かめたことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 (分)	○「太一の最後の選択を考えると、それ以前のどの関わりや出来事が大事だと読みましたか」 自分で言葉や本文の箇所を確認、理由を添えて考えを書く。ノートを示して説明し、聞き手は確かめたところと、まだ確かめたいところを返す。全体では考えが分かれた箇所を取り上げ、何を根拠にしたかを比べる。 〈予想される児童の反応〉 ・最後の場面だけを読むと分からなかったことが、前の場面と結び付く。 ・同じ行動でも、その理由を違う人物との関係から考えた。 ・友達の根拠を聞いて、別の読み方もできると思った。	太一の行動と、関わる人物の言葉や行動を対応させる。最後の選択につながると考えた箇所を示し、関係を説明する。解釈の違いは根拠の違いと結び付け、結論だけの賛否にしない。 想定する難しさ：命を大切にするという結論だけで本文との対応がない。人物の行動を自分の価値観だけで善悪に分ける。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 人物の生き方について場面を関係付けてまとめた意見を共有し、自分の考えを広げている。(発言と学習記録)
まとめ (分)	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって確かめたことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・友達の根拠を聞いて、別の読み方もできると思った。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った実際の言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って紹介や説明の文章を直す。 ◎態① (学習前後の記録と、見直した理由)

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「太一の最後の選択を考えると、それ以前のどの関わりや出来事が大事だと読みましたか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた実際の言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

